野研びより

水生生物編　２号
野外生物生態調査研究　水生生物班
2017 年９月

図１　モクズガニ
2017 年 ９月３日
宮崎市加江田　知福川上流

モクズガニ　*Eriocheir japonicus* De Haan, 1835
別称　毛ガニ、ヤマタロウガニ
イワガニ科モクズガニ属
甲幅　60～80mm
分布 日本各地
寿命　3～5 年程度

【生態】
成体（親）は河川、湖沼で暮らし、秋から冬に産卵のために海に下る。
汽水域で繁殖をし、小ガニとなって夏には河川を上る。
基本的には水中にある植物をエサとしているが、動物質のものも食べる[1)]。
ウェステルマン肺吸虫の中間宿主である。

図２　モクズガニのハサミ
2017 年 ９月３日
宮崎市加江田　知福川上流

【名前の由来】
図に示したように、鋏脚に長く滑らかな毛が密集して生えるのが特徴であり、水中では藻くずのように見えることからその名がついたと考えられている。

【近縁種】
上海カニとして世界的に有名なチュウゴクモクズガニとは同属異種の関係である。外見的にも味わい的にも似通っている。国内で近縁種がいるにも関わらず大量に輸入されているという不思議な構図となっている[1)]。

【食用】
大型種のカニであり、上海カニの近縁種でもあるため、非常に美味である。大型種と言っても、食べられる身は少ないため、汁物や炊き込みご飯にすると独特の風味を楽しめる。
しかしながら、モクズガニには、ウェステルマン肺吸虫という終宿主が人間の寄生虫が寄生している場合がある。これはサワガニなどにも観られる寄生虫の一種であり、人間が寄生されてしまうと様々な症状が現れるため注意が必要である。十分に加熱調理すれば、寄生虫は死ぬので問題なく食べられる[2)]。

【観察メモ】
宮崎大学周辺の用水路や河川で多く観察できた事は、一生の間に海と河川の間を回遊する「通し回遊」という習性があるためと考えられる。しかしながら、海からおよそ 20km 以上離れた宮崎県木城町の渓流でも数匹観察できた。
宮崎市加江田の知福川上流では 3 匹のモクズガニを観察できたが、そのうち 2 匹の体表、主に脚の付け根に多量の寄生虫のような生物が付いていた（ウェステルマン肺吸虫のメタセルカリアではないかと思われる）。100m も離れていない地点で、食性や環境も大きな違いはないはずだが、寄生されている個体と寄生されてい

ない個体がいることに疑問を持った。

参考文献

1）　ぼうずコンニャク市場魚貝類図鑑
https://www.zukan-bouz.com/mailmagazine.php
2）　食品衛生の窓　東京都福祉保健局
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/musi/07.html